

多良海道を往く

永昌宿

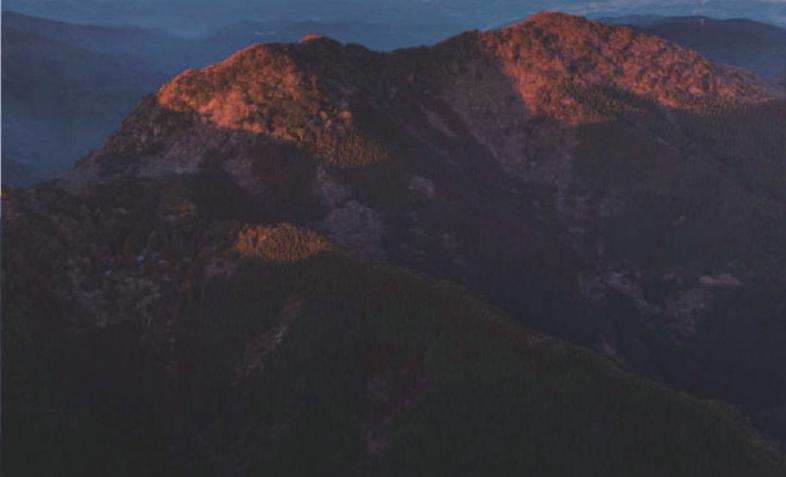
永昌宿
諫早神社
諫早公園(高城址)
諫早市美術・歴史館
安勝寺
岡口堪忍場跡
千人塚
大歳神社
正久寺茶屋跡
西山家武家屋敷
東長田村・深海村境石
天初院
桃木茶屋跡
隆信さんの腰掛石
和銅寺

歩く海道マップ

03



多良海道とは
長崎街道多良往還・多良道・
諫早街道などとも呼ばれ、
永昌宿(長崎県諫早市)～
塩田宿(佐賀県嬉野市)間の総距離
十二里八町(約四十八km)の
ルートを指す。
途中、湯江追分からは
山あいのルートと有明海沿いのルートの
二手に分かれるが多良宿で合流する。
有明海沿いのルートを「竹崎街道」と呼ぶ。



湯江宿

永昌追分
永昌代官所跡
飛び石
眼鏡橋
慶巖寺
岡口堪忍場跡
千人塚
大歳神社
正久寺茶屋跡
西山家武家屋敷
東長田村・深海村境石
天初院
桃木茶屋跡
隆信さんの腰掛石
和銅寺



⑯西山家武家屋敷



西山家は五代傳左衛門が小江村・藤田尾村・大田尾村・白浜村・東長田村の五ヶ村の郷目付を務めた。屋敷は安政末年、不審火により焼失。文久2(1862)年に新築された。江戸時代の武家屋敷としては市内で唯一の建物。

⑰ちらやのん坂



坂の名称の由来は不明。江戸時代の多良海道の面影が良く残っており、一部側溝の後が残っている。坂を下ると東長田村と深海村との境であった、深海川に出る。

㉑桃木茶屋跡



茶屋周辺では桃の木がまったく育たなかつたが、この茶屋だけには立派な桃の木が成長し、美しい花を咲かせていたことから、桃木茶屋と呼ばれるようになったといわれる。

㉒子安觀音



海道脇に小さなお堂があり、子安觀音が祀られている。昔は安産の觀音様として、近郷の妊婦たちが安産祈願に訪れ、賑わっていた。

㉓東長田村・深海村境石



東長田村と深海村の境界として深海川に設置してあったが、昭和32(1957)年の諫早大水害により流出、昭和50(1975)年頃、川の浚渫工事の際に発見され畔石に利用された。平成25年に蟹喰公民館脇に移設。高さ約1.4m、一辺約25~27cm。年代は不明。

㉔さかなか坂



坂の名称は、「急坂の半ば」から付けられたと言われる。海道は側溝が整備され、舗装道となっているが、道幅や傾斜は当時のままである。坂近くの広場にはかつて天神があり、駕籠立場であった。

㉕隆信さんの腰掛石



龍造寺隆信が海と陸から島原攻めをする際ここを通りかかったところ、風もないのに先頭の旗竿が折れたため、この石に籠を置き休んだという言い伝えがある。

㉖山伏の石碑



自然石に山伏の姿が線刻された碑が建っている。上段に役行者、中段に兜巾を頭にはめた山伏が四体、下段に三体と右側に八咫鳥と思われる鳥が彫られている。造立目的や元々この地にあったかは不明であるが、この地は金泉寺・太良嶽権現上宮への参道が近くにあるため、結界として建立されたと思われる。

㉗天初院



江戸時代、天初院がある深海村は長崎の深堀家の飛地。当地に隠居していた深堀純賢の庇護を受け、元和2(1616)年に曹洞宗の寺院として開山。本堂裏手には純賢夫妻の墓、殉死墓が祀られている。また、境内には明治時代活躍した荒川一々の句碑がある。

㉘小江神社



天正5(1577)年に創建とされているが、本社と神官の家屋が台風で吹き倒された折、由緒録が紛失し詳細は不明である。

㉙和銅寺



和銅元(708)年に開山した曹洞宗の寺院。本尊は行基作と伝えられる十一面觀世音菩薩で、長崎県有形文化財に指定されている。本尊は秘仏で60年に一度御開帳される。本堂東側にある行基の座像は「なで仏」と呼ばれている。

㉚湯江宿上使屋跡



寛文12(1672)年に建てられ、幕府巡回使や佐賀藩主などが休泊。母屋は茅葺屋根の武家造りで、中央に居間や寝所などがあり、南には弓的場、北東に武具庫や食糧庫が建ち並んでいたと言われる。現在は石垣と農地になっているが屋敷跡が残っている。

⑦眼鏡橋



長さ49.25m、幅5mの石造り2連アーチ橋。天保10(1839)年に諫早家第12代茂洪公や領民が「永久不壊」の願いを込めて架橋。昭和32(1957)年の諫早大水害後、昭和36(1961)年に諫早公園内に移築復元された。石橋としては日本で最初に国指定重要文化財に指定された。

⑧諫早市美術・歴史館



美術館と博物館機能を併せ持つ、諫早市初の本格的なミュージアム。諫早市にゆかりのある美術・歴史・民俗資料などをわかりやすく展示し、郷土「諫早」の愛着を育む場となっている。

⑬千人塚



土園川の側の弘法大師堂に「土園神池 千人塚」と刻まれた自然石がある。これは昭和初期、千人塚が祀られている付近で怪我人や病人が絶えなかったため、その災厄を鎮めるために昭和11(1936)年に祀られたものである。

⑭天満神社



祭神は宇賀魂神・天照大神。天文年間(1532~54)に西郷氏が創建したと言われる。江戸時代は西長田村の産土神。明治になり、四面宮より筑紫國魂神社・西長田神社・天満神社と社名が改称された。農業守護・病気平癒・家内安全・災難・厄除けの神徳があるとして崇敬されている。

⑨慶巖寺



浄土宗の寺院で、慶長10(1605)年、泉野(本諫早駅裏)より移転創建された。山門は莊嚴寺(諫早神社境内にあったが現在廢寺)より移設。境内には南北朝時代の年号が刻まれた「名号石」や「磨崖仏三十三所観音」などの史跡がある。また、「六段の調」の発祥地としても知られる。

⑩安勝寺



諫早家初代龍造寺家晴公から諫早領内浄土真宗の総道場の辞令を頂いた名利。諫早に本陣が無かったことから、その役割も果たし、幕府巡見使やシーポルトなどの要人が休泊した。境内の「鐘楼」は江戸中期から昭和19(1944)年の金属供出まで諫早の町に時を告げていた。

⑯大歳神社



祭神は大年神。遠か遠くに雲仙岳を望み、有明海の眺望も良かったことから、佐賀藩主や諫早領主が駕籠立場として立ち寄っていた場所。神社の裏側には以前、さやごぜん橋のたもとにあった「さやごぜん(道祖神)」が移され、現在も祀られている。

⑯一里塚



一里塚は1里 = 36町(約3.927m)ごとに海道の両脇或いは片側に築かれていた。一辺約2m四方、高さ約4mあり、多良海道で唯一現存している一里塚。地元では三本松の一里塚と呼んでいる。岡口堪忍場近くの一里塚より1里(約4km)。

⑪岡口堪忍場跡



岡口は諫早城内と城外の境付近に位置している。堪忍場とは佐賀藩主や諫早領主など要人をお迎え・お見送りした場所。ここには三角形の笠石を乗せた一对の石柱が堪忍場の出入口を示し、棒が汚れない様に堪忍石と呼ばれる石が設置してあった。

⑫光江津(諫早津)



本明川河口にあった光江津は、佐賀・久留米・柳川へ往来する有明海航路の港のひとつで、京都・大坂そして江戸へ輸入品の「生糸」などを運ぶ東回りの重要な積出港だった。船は有明海の干満差を利用し、出入は1日2便あった。

⑰正久寺茶屋跡

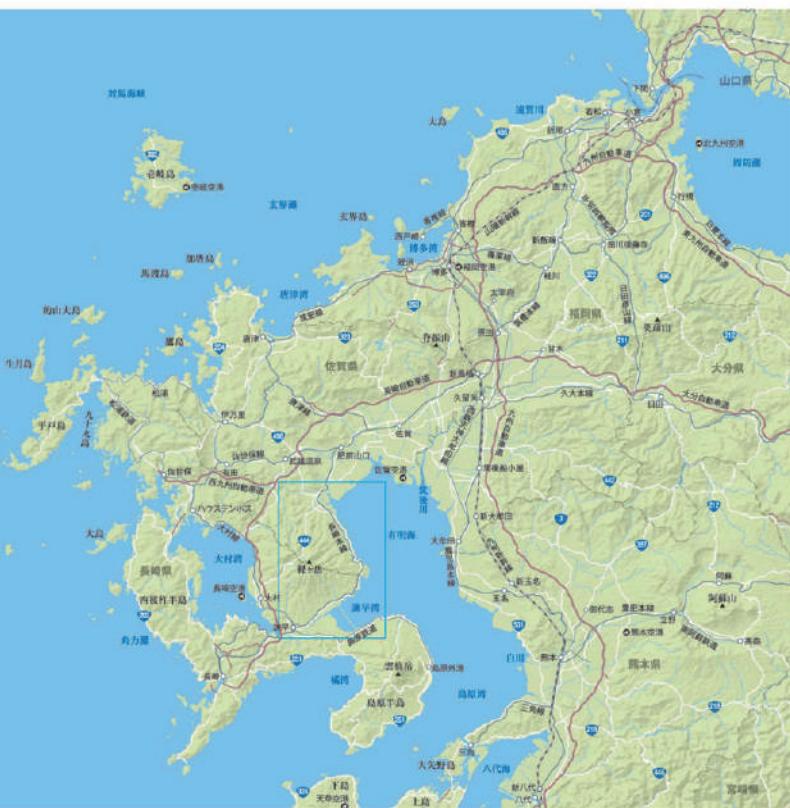


街道を行き来する旅人たちが、休憩のために立ち寄った場所。「旧諫早街道茶店跡」と文字が刻まれた石碑が建っている。

⑱高天神社



祭神は高皇產靈神・天照大神。慶長年間(1596~1614)、高皇產靈神の神号を記す神鏡を大戸尾の大石の上に石祠を建立、寛文5(1665)年に東長田村の産土神として尾首に遷座し、土地安全と五穀豊穣守護を祈願した。二ノ鳥居の左側には、古墳時代の横穴式石室の天井・奥壁・両腰石が残る尾首古墳がある。



諫早までのアクセス



福岡市内から約1時間40分／九州自動車道→長崎自動車道→諫早IC
佐賀市内から約1時間10分／長崎自動車道→諫早IC



福岡市内から約2時間20分／博多駅交通センター→諫早IC
佐賀市内から約1時間20分／高速基山→諫早IC



博多駅から約1時間30分／博多駅→諫早駅
佐賀駅から約1時間／佐賀駅→諫早駅

太良までのアクセス



福岡市内から約1時間40分／九州自動車道→武雄北方IC→太良
長崎市内から約1時間／長崎IC→諫早IC→太良



博多駅から約1時間30分／博多駅→多良駅
長崎駅から約1時間10分／長崎駅→多良駅

お問い合わせ

**諫早市
(長崎県)**



〒854-0016
長崎県諫早市高城町5-10
(一社) 諫早観光物産コンベンション協会
Tel.0957-22-8325
<https://www.isahaya-kankou.com>

**太良町
(佐賀県)**



〒849-1601
佐賀県藤津郡太良町大字伊福甲 3488-2
道の駅太良 観光案内所内／太良町観光協会
Tel.0954-67-0065
<https://www.tara-kankou.jp/>

**多良海道
ホームページ**
<https://tarakaido.jp/>



◎令和3年3月発行
◎編集・発行／歴史の道観光・文化交流推進協議会
◎デザイン／(株)イーズワークス
◎印刷／(株)インテックス

①永昌追分



長崎街道と多良海道の分岐・合流地点。現在は別の場所に移設されている道標石には「此方諫早通湯江道」「此方長崎道」「此方大村道」と刻まれている。近くには人馬維立所や駕籠立場があったが面影は残っていない。

②永昌宿



長崎街道25宿の1宿で新宿とも呼ばれていた。ここより矢上宿へ4里(約16km)、大村宿へ3里(約12km)、湯江宿へ3里(約12km)。鉄道の敷設や道路の拡張により面影は残っていない。

③永昌代官所跡



永昌代官所は佐賀本藩家臣が代官を務め、諫早領内の14ヶ村の御蔵入地(佐賀本藩直轄村)からの年貢徵収や街道の整備・監視、御蔵入地や諫早領の取締りなどをおこなっていた。また、道向かいには俵錢方という役所があり、他藩へ運ばれる生糸など50品目に対し、通行税などを徵収していた。代官所も俵錢方も道路の拡張で無くなった。

④諫早神社



創建は神亀5(728)年といわれる。江戸時代は四面宮といい、「おしまんさん」と呼ばれ親しまれてきた神社。佐賀藩諫早領の総鎮守であり、諫早家の祈願所でもあった。境内のクスノキは県指定文化財に指定されている。

⑤飛び石



江戸時代、本明川には飛び石が3ヶ所設置され、諫早神社前には2ヶ所あり1つは参道、1つは多良海道に通じていた。現在、本明川には飛び石が十数ヶ所設置しており、その中に眼鏡橋の形をした飛び石が2ヶ所設置してある。

⑥諫早公園(高城址)



戦国時代は西郷氏、江戸時代初期は諫早氏の本城があった。現在は諫早市城山暖地性樹叢として国指定天然記念物に指定されている。頂上には樹齢600年と言われるクスノキが聳え、諫早家の遠祖を祀った「家晴明神」・「藤原明神」、国指定重要文化財の眼鏡橋、諫早市の木「ヒゼンマユミ」などがある。

多良海道MAP

(永昌宿～湯江宿)

- 海道 (徒歩可)  (車一部不可) 
- 海道 (車一部不可)  (両方通行不可)
- 迂回路  (両方通行可) 



スマートフォンで
多良海道と現在地が
確認できます

1:15,000
0 100 200 300 400 500m





